

33 透析患者の糖尿病と非糖尿病患者の自己管理の比較検討

JA長野厚生連 篠ノ井総合病院
人工腎センター 須田涼子 塩野入悦子
斉藤真美 塚野倫子

I はじめに

日本における透析患者の下肢切断の発症率は2000年、1.6%であったが2005年には2.6%と増加し、透析患者18万人中4755人であった。その70%は糖尿病患者（以後DMとする）である。透析患者においては過去10年に下肢切断を経験した患者7名であり、いずれも糖尿病性腎症であった。透析患者の状態を把握し、糖尿病患者と非糖尿病患者の自己管理を比較し、患者支援のあり方を検討したので報告する。

II 方法

1. 期間

平成21年5月から11月

2. 対象患者：外来血液透析患者137名（糖尿病患者37名，非糖尿病患者100名）

3. 調査方法

対象患者の概要

男性：DM患者25名 非DM患者61名

女性：DM患者12名 非DM患者39名

平均年齢：DM患者63.4±10.3歳 非DM患者61.8±12.3歳

透析歴：DM患者6.7±5.8年 非DM患者14±9.1年

糖尿病歴：16.8±8.1年

1) 平成15年～21年の間に足関節上腕血圧ankle-brachial pressure index（以下ABIとする）検査を受けた、DM患者非DM患者

2) 足病変の観察

3) 患者への聞き取り調査

- ①動脈硬化を知っているか、その内容
- ②動脈硬化に気をつけているか、その内容
- ③検査結果を気にしているか、その内容
- ④指示栄養量を知っているか、知らない理由
- ⑤指示栄養量を意識しているか、意識していない理由
- ⑥調理を行っている人
- ⑦糖尿病で気をつけているか、その内容と理由

4. 倫理的配慮：

プライバシー保護のため調査結果を本研究以外使用しないこと、研究の目的・方法を説明し、同意を得た。長野県厚生連篠ノ井総合病院看護部の承認を得た。

看護部：須田涼子 〒388-8004

長野市篠ノ井会666番地1 JA長野 篠ノ井総合病院

III 結果

1) ABI 検査結果 (H20～21年) (表1)

	正常 (0.9～1.3)	異常 (0.9↓1.3↑)
DM患者 計33名	28 (85%)	5 (15%)
非DM患者 計76名	56 (74%)	20 (26%)

ABIの基準値は0.9～1.3が正常範囲である。

検査結果はDM患者異常15%、非DM患者26%であり、ほとんど差はみられなかった。(表1)

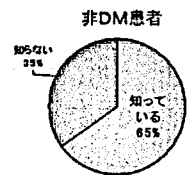
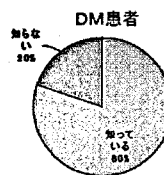
2) 足病変結果 (件数) (表2)

	足背 動脈 微弱	足背 動脈 なし	爪の 変形	鶏眼	足の 変形	傷 あり	治 療 中
DM 患者	9	0	23	5	16	0	2
非DM 患者	19	4	50	5	35	1	3

DM患者37名 非DM患者100名

足病変に関しては、DM患者、非DM患者ともに、足背動脈微弱・爪の変形・足の変形が主にあげられ、ほとんど差はみられなかった。(表2)

動脈硬化について知っているか！



	知っている内容	件数
1	血管系	18
2	脳梗塞	3
2	血圧が高くなる	3
3	心筋梗塞	2

DM患者：無回答2名

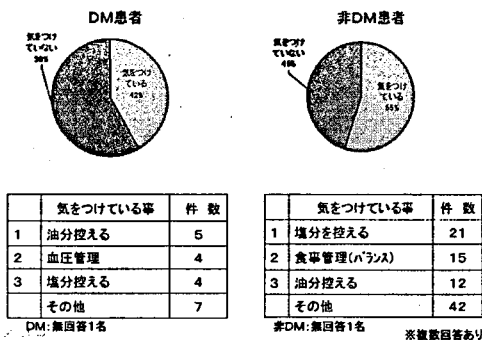
	知っている内容	件数
1	血管系	90
2	血圧が高くなる	19
3	脳梗塞・心筋梗塞	16
	その他	19

※複数回答あり

(図1)

動脈硬化については、DM、非DM患者共に80%が「知っている」であった。知っている内容は、両者ともに血管系であった。(図1)

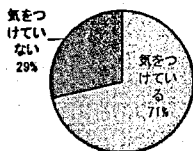
動脈硬化に気をつけているか!



(図2)

動脈硬化について気をつけていると回答した患者は、DM患者42%、非DM患者55%であり、約半数であった。気をつけている内容に関しては、両者ともに同じような内容があがったが、順位は異なった。油分に関して、DM患者は一位であり、非DM患者は三位であった。塩分に関しては、DM患者は三位であり、非DM患者は一位であった。

糖尿病で気をつけているか!



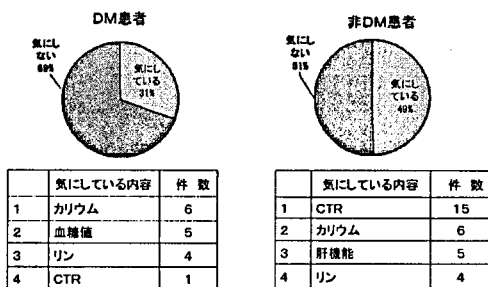
気をつけている事	件数	気をつけていない理由	件数
食事量の調整	7	検査結果に異常ない	3
糖분을控える、摂らない	6	薬物治療していない	1
低血糖予防	1	気にするとストレスになる	1
インスリンを忘れない	1		

無回答:1名

(図3)

DM患者においては、日々の生活の中で気をつけているが71%、気をつけていないが29%であり、気をつけていない理由としては、検査結果に異常がない・現在は薬での治療はしていない・気にするとストレスになるなどの回答であった。(図3)

検査結果を気にしているか!



無回答:1名

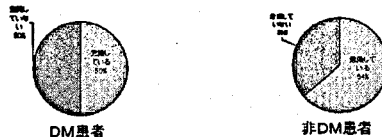
(図4)

検査結果は、気にしているはDM患者31%、非DM患者49%。気にしていないはDM患者69%、非DM患者51%であり、ほとんど差は見られなかった。気にしている内容も順位は異なるが、内容は同様のものであった。異なった内容は、DM患者は、血糖値、非DM患者は肝機能であった。(図4)

指示栄養量を知っているか!



指示栄養量を意識しているか!



(図5)

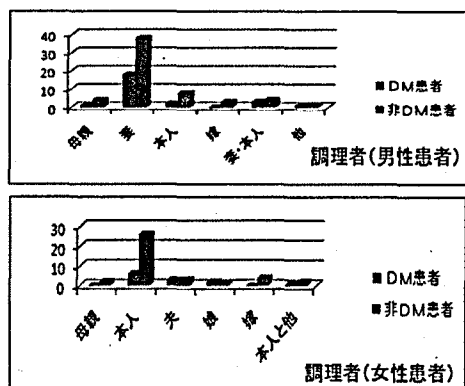
指示栄養量を知っているかについては、DM患者65%、非DM患者56%が「知っている」と回答しており、両群に差はなかった。

指示栄養量を意識しているかについては、「意識している」と回答したDM患者は非DM患者より14%少なく、指示栄養量を知っていると回答した患者より15%減少していることが分かった。(図5)

(表3)

DM患者		非DM患者	
指示栄養量を知らない理由			
知らない理由	件数	知らない理由	件数
昔のことで忘れた	3	知らない、気にしていない	14
聞いた事が無い	2	昔聞いただけ	4
数字を知らない	1	具体的説明がない	3
その他	6	その他	8
無回答: 5名		無回答: 17名	
指示栄養量を意識していない理由			
意識していない理由	件数	意識していない理由	件数
忘れた・覚えていない	3	覚えていない・面倒	3
美味しい物を食べたい	1	特に検査に異常が無い	1
意識していたら死んでしまう	1	指示栄養量だと不足	1
その他	6	その他	5
無回答: 5名		無回答: 23名	

調理を行っている人



(図6)

IV考察

以上の調査結果から、糖尿病の有無に関わらず透析患者は動脈硬化のリスクが高いことを認識し、足病変の観察のみに重点をおくのではなく、動脈硬化が発症しないような予防的支援が大切であることを再認識した。

指示栄養量を知っている、意識しているは、DM患者・非DM患者共に有意な差は見られなかったが、指示栄養量を知らない理由は、「指示栄養量を忘れた」という回答から記憶は薄れたり、曖昧であるために定期的な確認や意識づけを行うことが大切であると考えた。また、「知らない」「気にしていない」という返答に関しては、自身の自己管理に対しての意識付けの大切さを再確認した。

医療スタッフは一生、継続していかなければならない治療、自己管理に対してどのような思いを持っているのか関心を持ち関わり、患者の思いを傾聴し、患者が気楽に声をかけられるような身近な存在にならなければならないと

考える。

このことをふまえて、患者自身が自己管理を行おうと思えるような患者支援は患者とかかわり続けることだと考える。

アンケート結果より、自己管理の一つとして目安となる指示栄養量が理解できるように年1回、指示栄養量を伝える。定期検査結果により対象となる患者に、栄養士と情報交換し、継続した栄養指導を行う。

看護師は月1回は受け持ち患者の思いを聴き、患者が自己管理の大切さを意識できる支援を行っていきたいと考える。

V結論

- ①動脈硬化の発症には糖尿病の有無は直接的な要因となっていないことがわかった。
- ②動脈硬化を予防するためには足の観察をするのみでなく、食事や生活習慣などの自己管理をしていけるように意識づけが大切である。
- ③医療スタッフは、一生続けていかなければならない透析治療に対する患者の思いを大切にされた関わりが必要である。

【参考文献】

日本糖尿病療養指導士受験ガイドブック:メディカルレビュー社 2008
新しい診断と治療のABC60 循環器 10 閉塞性動脈硬化